



こげしの初引き 写真提供:宮城県観光課

計 量 み や き

2018.1.15
 編集発行
 仙台市太白区長町7-22-23
 (一)宮城県計量協会
 TEL 246-2466・FAX 247-1490
www.keiryō.net/

年頭のご挨拶



会長 鍋島 孝敏



新年、明けましておめでとうございます。会員の皆さまには、お元気で新春を迎えられた事と心よりお慶び申し上げます。

東日本大震災から七年目を迎え、各地にあった仮設住宅は解体され公営復興住宅の建設が着々と進んでいます。肝心の住民の帰還が進まず地域の復興はまだまだという状況です。

被災地における建築需要の一段落を受けて、我が宮城県計量協会事業の柱の一つである泉の宮城県産業技術総合センターでの鉄筋の引っ張り・曲げ試験やコンクリートの圧縮・破壊試験などの工業品材料試験の依頼件数が減少し、県からの委託料も毎年減額になって来ている状態です。仙台市の定期検査や県下の計量器の代行検査等、ハカリの定期検査業務の方も一時的な現象かとは思いますが検査台数が減少しており、総合的に考えて協会としての新たな事業の検討を始めた所でございます。

タイミング良く、全国的には次なる十年に向けて計量制度のあり方そのものを見直すべく政省令の改正が次々に実施されており、定期検査のみならずハカリの修理時点の「検定」までも民間委託する方向やこれまで計量法の対象外だった自動ハカリが検定対象になったりと、新しい取組みが求められる事態となっております。計量協会

としての存在意義が問われる年となりそうですが、計量制度が大きく変わろうとしている今こそ、協会の使命を改めて確認して、健全な財政運営に努めて参る所存です。

昨年は、十月五日・六日と秋保温泉「ホテル佐勘」にて東北六県・北海道計量大会が宮城県当番で開催されました。計量業界そのものが岐路にある重要なタイミングでの大会とあって、各県からの参加者の意識も高く大変意義のある大会になりました。理事を始め会員の皆様にも多数ご参加頂き誠に有難く、改めてここに御礼を申し上げます。

毎年十一月一日の計量記念日記念事業としての「みやぎ計量のひろば」を昨年も十月二十八日(土)に「セルコホーム ズーパライズ八木山動物公園」で開催致しました。好天にも恵まれ、地下鉄東西線の影響もあって例年に無く大勢の市民の皆様に参加頂き、我々が目指して来た本来の計量思想の普及・啓発の場となりました。このような事業こそ協会の基本的な役割と認識し、今後も総力を上げて取り組んで参ります。

今年も、さらなる事業を取り込みながら強靱な体質の協会にして行かねばならず、理事の皆様を始め会員の皆様の協会運営へのより一層のご理解とご協力をお願いして私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

復興の総仕上げに向けて



宮城県知事

村井 嘉浩

明けましておめでとうござい
ます。新しい年を迎えるに当たり
県民の皆様の御健勝と御多幸を
心からお祈り申し上げます。

昨秋に行われた知事選挙にお
いて、私は県民の皆様の御支持を
いただき、引き続き県政運営を担
わせていただくことになりました。
四期目の重責を痛感すると
もに、選挙期間中にお聞きした県
民の皆様の声に応えるため、県政
の様々な課題に力強く、きめ細か
く着実に取り組んでまいります。

昨年は、全国高等学校総合体育
大会「南東北インターハイ」や全
国高等学校総合文化祭「みやぎ総
文2017」が開催され、本県高
校生の活躍が私たち県民に多く
の感動を与えてくれました。また、
全国和牛能力共進会宮城大会で
は宮城の代表牛が「第二区」で
堂々の一位に輝き、仙台牛の品質
の高さを日本全国へアピールす
ることができたほか、計量関係で
は、十月に東北・北海道計量大会
が約二〇〇名の参加のもと本県
において七年ぶりに仙台市秋保
で盛大に開催されました。さら
には、三陸縦貫自動車道の延伸や
仙沼市立病院の新病院開院など
震災からの復興が着実に進み、商
用水素ステーションの開設や新
ブランド米「たて正夢」のブレ

ピューなど「創造的な復興」に向
け取り組んできた成果が形と
なっており、現れた年でした。

今年、「宮城県震災復興計画」
の総仕上げとなる「発展期」(三年
間)の最初の年になります。「震災
復興の総仕上げ」、「地域経済の更

年頭のご挨拶

あけましておめでとうござい
ます。

日頃より、本市の計量行政を始
め市政各般にわたり、ご理解とご
協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は七年ぶりに東北・
北海道地区計量大会が仙台市秋
保で開催されました。東北北海道
地区の計量関係者が一同に会し、
産業経済の発展と、計量思想の普
及啓発への思いを新たにする機
会となったこと、及び、地域を越
えた交流ができたことを喜ばし
く思います。

本市におきましては、前回大会
が開催された平成二十二年の翌
年に未曾有の被害を受けた東日
本大震災が発生し、震災復興計画
に基づいて、再生・復興の実現に
取り組んでまいりました。その計
画期間も終了し、着実に進む復興
を皆さま方にご覧いただけたこと

なる成長」、「安心していきいき
と暮らせる宮城の実現」、「美し
く安全なまちづくり」を政策推
進の基本として、復旧・復興に
向けた施策に最優先で取り組む
とともに、未来を担う子どもた
ちへの支援や人口減少対策など
地方創生の取組も併せて推進し
てまいります。

震災から間もなく七年が経過
します。震災前の状態に戻す「復
旧」にとどまらない「創造的な復
興」をさらに進め、一人一人が輝
く、元氣な宮城を県民の皆様と
ともに築き上げてまいりたいと
考えておりますので、今後とも
御理解と御協力をお願い申し上
げます。

仙台市市民局

生活安全安心消費生活センター

所長 櫻井 浩

としたいと思います。

昨年十月には、計量法の政省令
が改正されました。新たに特定計
量器に「自動はかり」が加えられ
るなど、昨今の技術の進展や社会
経済情勢の変化を受けた大きな
改正になります。今後とも全国的
な動きを注視するとともに、適正
な計量の実施の確保に尽くして
まいります。

貴協会におかれましては、本市
の指定定期検査機関として安定
した計量検査の実施にご尽力い
ただき、円滑な計量行政を支えて
いただいていることに改めて感
謝申し上げます。

引き続き、消費生活の安全安心
の確保や健全な産業活動の推進
のため、「ご理解とご協力をお願い
申し上げます」とともに、皆様のま
ますのご健勝とご繁栄をお祈
り申し上げます。年頭のご挨拶
とさせていただきます。



あけまして
おめでとうございませ

会 長	鍋島 孝敏	理事	三浦 誠
副 会 長	千葉 信弘	理事	山田 勝
副 会 長	笠原 秀	理事	市瀬 兼司
顧 問	石川 光次郎	理事	川越 振一郎
顧 問	渡辺 博	理事	菅野 幸二郎
専 務 理 事	草刈 謙一	理事	平野 重幹
常 務 理 事	佐藤 正使	理事	笹川 智
常 任 理 事	加藤 啓二	理事	邊見 義尚
常 任 理 事	嶺 優	理事	阿部 喜一
常 任 理 事	笠原 建	理事	二瓶 聡
常 任 理 事	鈴木 昇二郎	理事	三野 宮孝志
理 事	新井 田匡彦	理 事	木村 好秀
理 事	江刺 茂	監 事	大湯 澄
理 事	和田 剛和	監 事	加藤 昌宏
理 事	高橋 悟		

(敬称略)



平成29年度 東北・北海道計量大会

平成二十九年東北・北海道計量大会は、七年ぶりに本県開催で、秋保温泉伝承千年の宿「佐勘」において、十月五日（木）行われました。

大会には、国並びに各道県の計量行政機関、中央計量団体、会員約百九十名以上が集い、開会宣言の後、主催県の東北六県北海道計量協会連合会の鍋島孝敏会長の歓迎の挨拶があり、計量功労者八名の表彰式が行われました。本県からは東陽エンジニア（株）の鈴木昇二郎氏と（公財）宮城県公衆衛生協会の大友輝彦氏の兩名が表彰されました。

次に大会記念事業として、計量思想普及啓発イベントでお世話になったお寺、仙台市八木山動物公園に、動物の計量管理用として防水製の「デジタル台（かり）」を寄贈し、大内利勝動物公園園長様から謝辞を頂戴いたしました。

続いて大会宣言が読み上げられ、満場一致で採択されました。最後に、経済産業省産業技術環境局吉岡勝彦計量行政室長はじめ多数の来賓の方々から祝辞を頂き、大会は終了しました。

平成二十九年度 **東北・北海道計量大会**
十月五日（木）秋保温泉 伝承千年の宿「佐勘」

大会宣言

計量制度は、生活の安全安心・経済の発展・優れた文化を目指すために欠くことのできない社会基盤として重要な役割を担っております。

我々はこの計量制度を築き発展させてきた先人たちの貴重な財産を受け継ぎながら日々適正な計量の確保と普及啓発に努力しているところです。

今日計量業界を取り巻く環境は、昨今の技術革新や社会的環境の変化に対応するため、行政事業と民間事業の協同で、適正な計量制度を推進していく計量法政省令の改正が行われ、これから実施して行くこととなります。

この計量制度見直しの始まりの年を迎え、我々は計量の基盤と適正な計量の実施を確保しながら、将来に繋がる計量制度の維持・向上に努めなければならない責務があります。

本大会を機に、我々は決意を新たに計量人の使命感のもと、適正な計量の実施を推進して行くことで「くらしを守る確かな基準・・・計量・計測」、「信頼を 未来に届ける正しい計量」とスローガンを掲げ、本大会の名において宣言いたします。

平成29年10月5日

東北・北海道計量大会



大会宣言 加藤昌宏 監事

第六十六次 **東北六県北海道計量協会連合会総会**

計量大会に引き続き、第六十六次東北六県北海道計量協会連合会総会が、開催県の宮城県計量協会鍋島孝敏会長が議長に就き、前年度開催地であった山形県の安孫子初会長からの開催報告を受けてから、議事に入った。

提案議題は次のとおり。

議題一 計量制度の見直し（政省令改正の概要説明）について

（経済産業省産業技術環境局 計量行政室）
議題二 連合会総会の次期開催地について

（宮城県）

今総会は、計量制度の大きな見直しで計量法政省令の改正が今年度から実施されたことから、各道県からの提案議題に代えて、経済産業省計量行政室からの法改正の説明と、質疑応答を行った。

政省令の改正概要について、吉岡勝彦計量行政室長から説明が行われ、会員・計量団体から、「器差検定から外れた灯油等のタンクローリーやタクシメーターの今後の検定対象動向」、「器差検定に地域ブロック制を採り入れた理由」、「遠隔地検定の費用負担」



宮城から秋田へフラッグハンドオーバー

の質問があり、行政室長から回答説明があった。

議題二は、宮城県から次期連合会総会の開催地を「秋田県」としたい提案がなされ、秋田県森洋会長が快諾し、全会一致で承認された。

引き続き、本県の鍋島会長から秋田県へ大会旗が引き継がれるフラッグハンドオーバーセレモニーが行われ連合会総会が閉会された。

大会・総会后、記念講演が催された。講演は、今年宮城の伊達政宗公生誕四五〇年にあたるので、それにちなんだ講演を、青葉城資料展示館主任学芸員の大沢慶尋氏から「奥州の覇者 伊達政宗公」という演題で、伊達政



伊達政宗公御廟瑞鳳殿

宗公と仙臺にかかわる講演を聴講した。

夕方からは、歓迎レセプションが行われ、仙台定禅寺ストリートジャズフェスティバルに参加したメンバーのジャズ演奏の中、仙台の奥座敷、伝承千年の宿「佐勘」で計量人相互の懇親を深めました。

翌日の視察研修は、伊達政宗公生誕記念紀行として、青葉城から仙台を眺め、政宗公御廟の瑞鳳殿・仙台市博物館巡りをし、仙台国際センターで解散しました。

2017

計量のひろば



今年の計量記念日イベント「みやぎ計量のひろば」は、セルコホーム スーパーダイス八木山(仙台市八木山動物公園)で、10月28日(土)宮城県・仙台市・宮城県計量協会の共催で行いました。

当日は、風もなく時折木漏れ日がこぼれる快適な天候で、開園前に人だかりができるほどの入園者が詰めかけ、盛況だった昨年を越え1,300人以上の来場者がありました。イベントは恒例の鉛の「111gをはかろう」、人気のゴミ袋の「ビニールを引っ張ってのぼそう」コーナーや、秋田県種の大きなうさぎの重さを当てるクイズや計量法の説明パネルなど、各コーナー人が切れることなく賑わい、計量記念日の日を楽しんでいただきました。

イベント開催前に、小学生を対象とした計量記念日全国大会の「何でもはかってみようコンテスト」入賞者の表彰式を行いました。「MLサイズの卵はどっちがお買い得?」というお買い物の計るをテーマにした作品でした。

また、地元河北新報の取材も有り「正しい計量器で正しくはかる」ことの大切さを知ってもらう計量イベントとしても紹介されました。

平成29年

10月28日(土)

10:00~14:00

セルコホーム
スーパーダイス八木山
(八木山動物公園)



大きなうさぎさんの体重を当てよう!



こんなに大きいぞ!



何でもはかってみようコンテスト表彰式



人気のゴミ袋のビニール引っ張り伸ばそう



計量のはなし



電気コーナー

優良事業所視察研修会

in 山形

- (株)山形共和電業
- (株)天童木工

平成29年度の優良事業所視察研修会は、晩秋の国道48号線をたどり山形県の優良事業所を会員17名で視察に訪れました。最初の研修先は、山形県東根市にある(株)山形共和電業、ひすみゲージの大手メーカーです。また山形県計量協会の安孫子会長が技術顧問を務めている会社でもあります。

金属板や金属箔に通した電線に圧力が加わると変化する電気信号を計測して、加わった圧力の値を表示するひすみゲージを製作し、コンクリートダムの本体の変化や水道メーターのアクリル窓の強度試験等々、計測分野の多岐にわたって使用され、この圧力計測器を自動車等の製造企業や海外の新幹線の計測用にも供給しております。また高速道路のETC入り口路面に設置され、車の過積載を監視する車両重量計にも使われているそうです。

この計量計測に大きく関係のあるひすみゲージのクリーンルーム内での製作、試験をしている状況を視察しました。

次は、天童市にある(株)天童木工の視察を行いました。天童木工は、昭和15年の戦時中に山形の木工職人が集まり創業された会社で、当時は軍の要請で、日本はまだ物資が豊富で元氣だと見せるための疑似のゼロ式戦闘機を木で作ったそうです。戦後は、和製の櫃・ちゃぶ台から、進駐軍の影響で洋式の椅子テーブル作りへと移行していったそうです。

また、天童木工の特徴は、成形合板(板を縦目横目に何枚も重ねプレスしたものを)を日本でいち早く取り入れた屈指の合板メーカーで、無垢材では出来ない木目調の車のハンドルや日本を代表する建築家やデザイナーとともに複雑な曲面や美しいフォルムの家具を製作しているそうです。2016年のリオオリンピックの卓球台の支持架台も作りしました。

天童木工のショールームに展示されている高級な椅子やテーブルの値段のため息をつきながら、今年度の視察研修会を終了しました。



木製ハンドル



天童木工 1940年創業 木製疑似零式戦闘機の写真を背景に



(株)山形共和電業社屋前にて

計量制度の見直し

本年度計量法の政省令が六月に公布後、順次施行されはじめました。二十年ぶりの大改正です。主な改正は次のとおり。

- ① 自動はかりの特定計量器規制
- ② 器差検定のみ指定検定機関制度の導入
- ③ 非自動はかりの定期検査免除期間の特例期間の廃止
- ④ 検定証印等の年号表記の統一
- ⑤ 特殊容器のニーズに応じた追加

① 自動はかりとは、一般にコンベヤーなどで搬送等されるままの状態であるように動いている物の計量と言われる計量器ですが、「操作する人が質量表示や印字出力などを行わない計量器」と解釈するものです。

この自動はかりの法規制は、既にEU諸国や米国では実施されてきましたが、日本では実施されてなく、サンプリング計量(もしくは全量計量)で自主管理をしているようですが、国際的な流れやその普及拡大により法規制の対象にすることが諮問され、計量法の特定計量器に規制され、取引証明に使用するものは検定を受けなければならない(最初は四器種の自動はかりを対象とし、使用中のものや検定制度導入期間の猶予期間を勘案し、規制の最終期限は平成三十七、八年度になる)

② 器差検定のみ指定検定機関制度は、検定の迅速円滑化実施のため民間機関を活用し器差検査を主に行う制度の導入で、自動はかりの検定の他に、これまでの

非自動はかりやガソリンスタンドの燃料油メーターの器差検定も実施する機関が誕生する制度です。

③ 非自動はかりで三トン以下の質量計は検定等後の初回定期検査が免除される期間が、当分の間は三年とする特例措置が廃止され、全一年となります。(平成三十一年度検定品から実施)

④ 検定証印・定期検査済証印等の実施年表記が、和暦から西暦表記へ変更となります。(平成三十一年一月一日から完全実施)

⑤ 通称丸正ピンと呼ばれるビールビンなどの特殊容器(一定の高さまで詰められているものは表記内容量が確保されている)に発泡酒・第三のビールなど二丁の高いのものが加えられました。



自動はかり

宮城県計量検定所からの

お知らせ

自動はかりが計量法による特定計量器(届出・検定等の対象となるもの)に追加されました。

自動はかりの製造又は修理を行っている事業者は、平成三十年九月三十日までに「特定計量器製造(修理)事業届出書」を計量検定所に提出してください。

また、自動はかりのうち「自動捕捉式はかり(キャッチウエイヤ)」、「ホップスケール」、「充填用自動はかり」及び「コンベアスケール」のいずれかを取引又は証明に使用されている方は今後検定が必要になります。

詳しいことは、検定班まで問い合わせ願います。

昨年度から実施している一般計量証明事業者の主任計量者を対象としたレベルアップ講習会を、十一月十七日に計量協会と合同で開催しました。

受講対象は、主任計量者試験合格後、五年を経過した方で五年毎の講習間隔での受講計画しております。

詳しいことは、検定班まで問い合わせ願います。

二月から、計量証明事業者・届出修理事業者等の立入検査を実施する予定です。これからも検査態勢を強化するとともに、計量思想の普及啓発に努めてまいります。

平成三十年度

定期検査

実施区域

計量法第十九条(定期検査)及び第二十条(指定定期検査機関)に基づく、仙台市の平成三十年度の定期検査は、次の区域で行います。

- 若林区・泉区・宮城野区

平成三十年度

特定計量器代検査

実施区域

計量法第十九条(定期検査)及び第二十五条(定期検査に代わる計量土による検査)に基づく検査区域は次のとおりです。

- 岩沼市・大崎市・角田市・気仙沼市・白石市・名取市・東松島市
- 伊具郡・牡鹿郡・加美郡
- 遠田郡・本吉郡・亶理郡

※検査対象の事業所に対しては、当協会より事前に検査日程等を通知致します。

また、検査を受けていない事業所で、取引証明に使用されている計量器をお持ちの場合は、受検されますようよろしくお願い致します。(受検希望や問い合わせについては、宮城県計量協会へご連絡下さい)

計量職場研修

計量記念日月間の十一月十三日、会員企業の創業百周年を迎えた森永乳業(株)の東北森永乳業(株)の品質管理室さんから計量研修の依頼があり、協会計量士が出向き、計量の職場研修会を実施しました。

仕事が一段落の後四十名ほど集まった職員に、計量法の基礎・商品量目規制・はかりの使用と管理、さらに計量法政省令改正などの話を行いました。

牛乳や関連飲料を製造している工場なので、充填用・自動捕捉式の自動はかりを使用しており、計量法の改正に関心があったようです。

今回初めての計量職場研修でしたが、これからも会員企業を中心に、計量の大切さと経営、職場作業に生かせる計量管理や計量法の改正の説明を実施していきますので、計量研修のご希望があればお気軽に協会事務局まで連絡して下さい。



東北森永乳業(株)計量研修

一般計量証明事業場主任計量者試験・講習会のお知らせ

本年度最後の第三回計量証明事業場の主任計量者に認定されるための試験が、宮城県計量検定所で実施されるのに伴い、計量協会では試験対策の講習会を左記により開催します。

講習会日時
実施日時

平成三十年二月六日(火)

午前十時〜午後二時
午後三時四十五分〜午後四時十五分

講習会場

宮城県計量検定所
仙台市太白区長町七丁目
二十二番二十三号

受講の申込み

当協会ホームページを参照または協会へ問い合わせ下さい。
ホームページアドレス
<http://www.keiryu.net/>

電話〇二二二四六一二四六六

こけしの初ひき

(表紙写真説明)

宮城伝統こけし五系統の一つである白石の弥郎こけしの今年最初の初挽きが年明け早々に行われ、「弥二郎こけし村」の神社に奉納されます。これを祝う子供たちの「こけしみこし」も練り出し、蔵王不忘山の山裾の谷間に抱かれた小さな木地師の集落に大きなかけ声が響き渡ります。

編集後記

本県開催の東北北海道計量大会も盛況裡に終え一息ついたところですが、計量法の政省令改正が公布され、今年から順次本格的に実施されることになり、その情報収集と協会の方向性を検討しなければならぬ、急務の幕開けの年となりそうです。

また、昨年後半には鉄鋼メーカーの検査成績偽装や自動車メーカーの責任者不在検査の手抜きなど、計量計測に関する基準盤となるものが人の手によって歪められ信頼が失われ、大きな代償負担も課せられる出来事がありました。

人工知能、ロボット化、情報時代の隆盛も確固たる基準基準盤があつて未来に繋がるものです。

計量大会のスローガンを掲げ、今年も「正しい計量器で正しくはかる」と計量器検査と計量管理を支えて行きましょ。

くらしを守る

確かな基準…計量計測
信頼を 未来に届ける
正しい計量

